

# 令和2年（2020年）人間環境大学卒業生アンケート調査結果

## I. 調査概要

1. 実施期間：令和2年11月16日～11月30日

2. 調査対象：2018年度・2019年度卒業生が就業する67施設

2018年度卒業生 94人 2019年度卒業生 96人

3. 調査方法：管理者：無記名自記式アンケート調査

卒業生が就業する施設に質問紙を送付し、回答を依頼した。

卒業生：Google フォーム

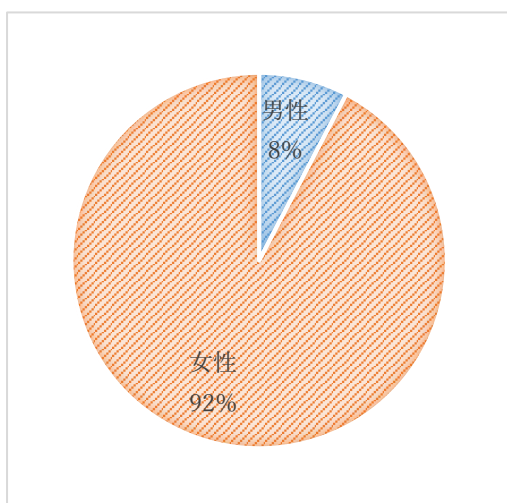
## II. 調査結果の概要

### 1. 対象の概況

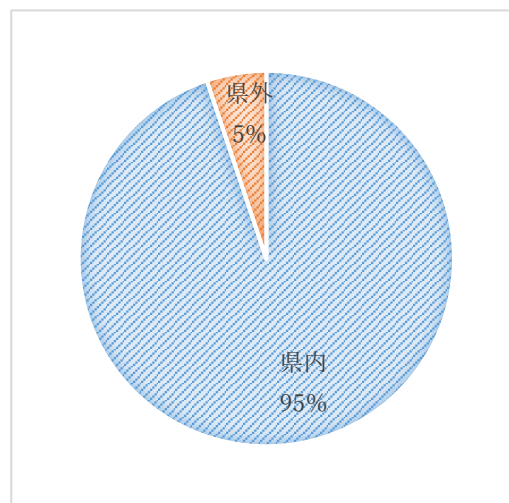
総数	67施設
返信	40施設
回収率	59%

	卒業生	回答数	回答率
2018年度卒業生	94	50	53%
2019年度卒業生	96	64	67%

### 1) 性別



### 2) 居住地



## 2. 就業状況

### 1) 就業状況

仕事をしている	111
していない	4
休職中	2
学生	0

## 2) 就業免許

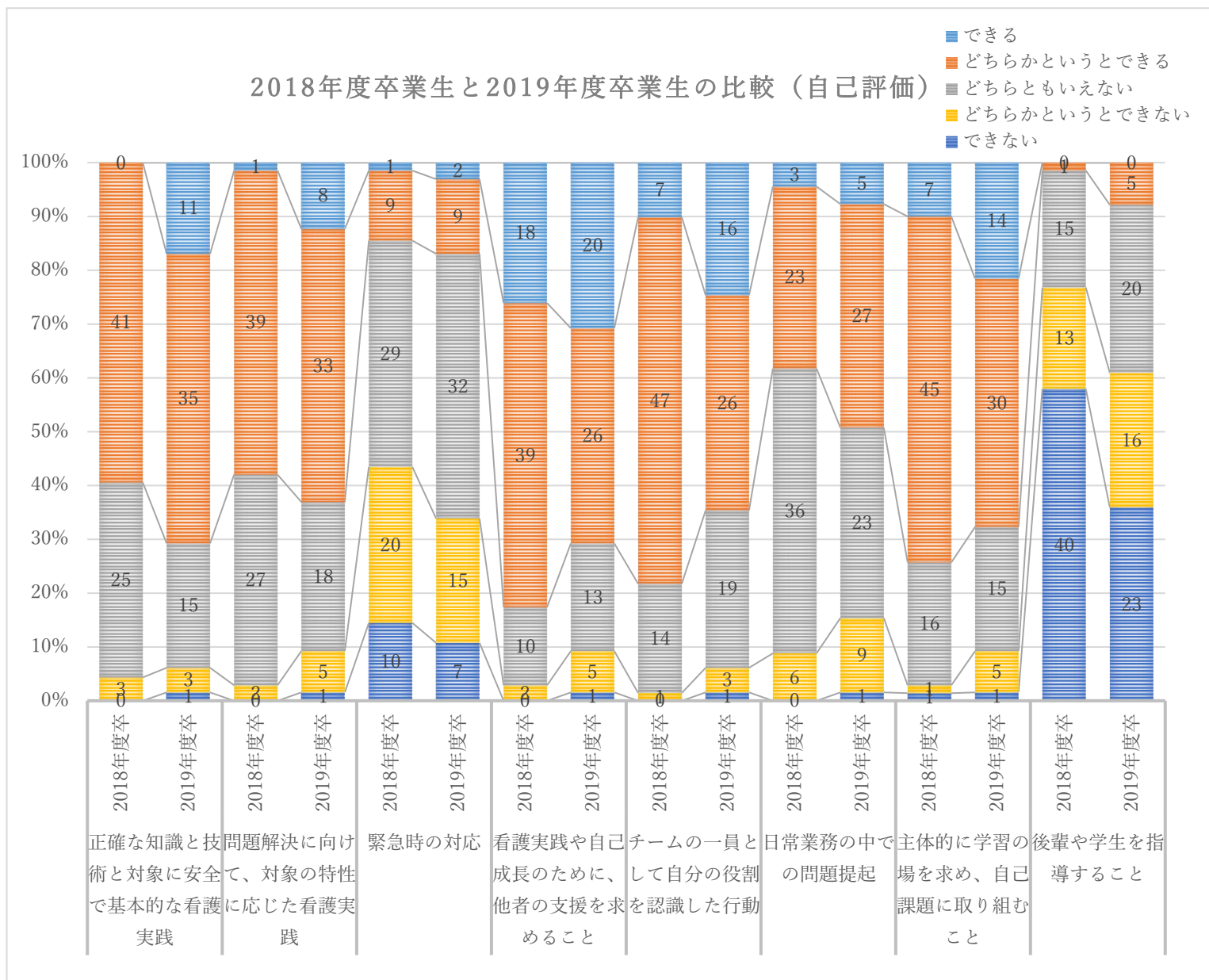
看護師	108
保健師	3
養護教諭	0
無回答	6

## 3) 就業場所

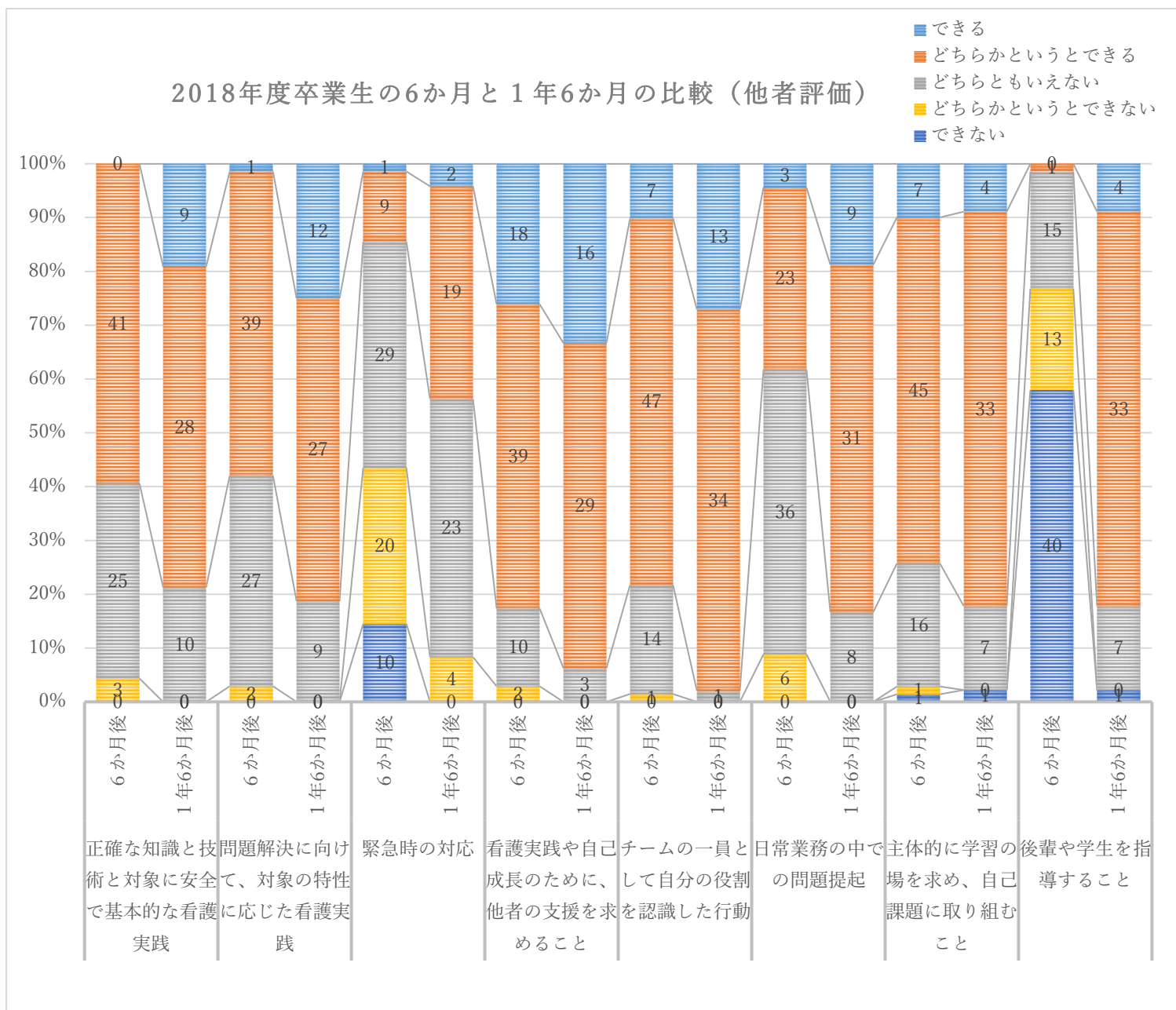
一般病院	109
精神科病院	1
診療所	0
学校	0
保健所・保健センター	3
無回答	4

### 3. 看護実践能力評価（自己評価、他者評価）

#### 1) 2018年度卒業生と2019年度卒業生の比較（6か月）



2) 2018年度卒業生の6か月と1年6か月の比較



4. 学部教育での学びについて、ディプロマポリシーを評価

**豊かな人間性と広い視野 1**：歴史、文化、社会、環境と人間に関する幅広い教養を持ち、人々の多様性を理解し、人間関係を築くことができる

**豊かな人間性と広い視野 2**：グローバルな視野を持ち、人々の多様な健康ニーズと生活を多面的に捉えることができる

**看護の専門的知識・技術 1**：人々の健康ニーズに対応（予防、改善、解決）するための看護実践に必要な基礎的能力を身につけている

**看護の専門的知識・技術 2**：保健医療福祉において調整・連携し、協働する能力を身につけている

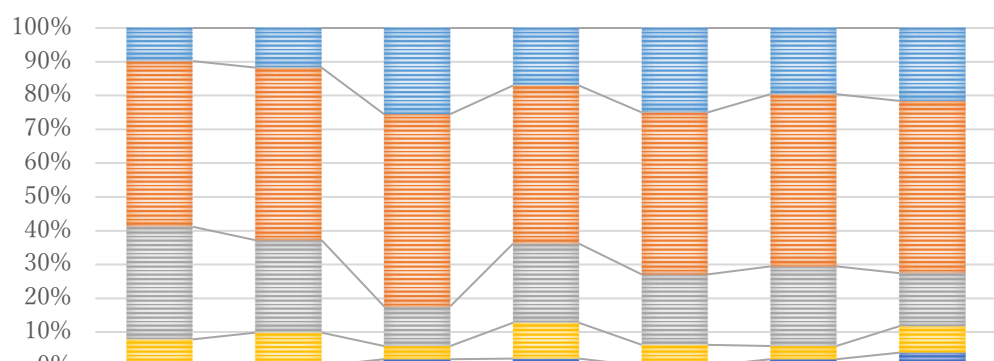
**看護専門職としての判断力**：専門職業人としての高い倫理観をもち、科学的・論理的思考に基づいて判断することができる

**看護の質向上に向けて探究心**：人々が健康に生きるための支援を科学的に探求するための基礎的能力が身につけている

**継続的自己研鑽**：保健医療福祉に貢献するために専門的分野についての継続的自己学習能力を身につけている

1) 2018年度卒業生

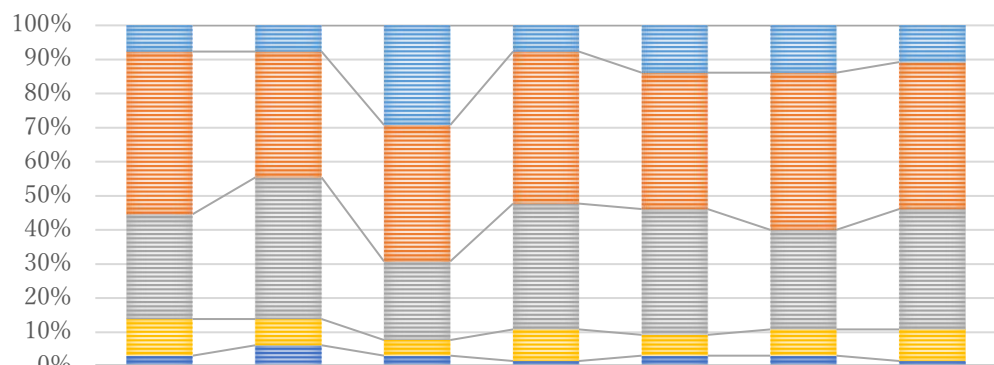
学部教育での学びについて（2018年度卒業生）



	豊かな人間性と広い視野 1:	豊かな人間性と広い視野2:	看護の専門的知識・技術 1:	看護の専門的知識・技術 2:	看護専門職としての判断力	看護の質向上に向けて探究心	継続的自己研鑽
■役に立った	5	6	13	8	12	10	11
■どちらかというと役に立った	25	26	29	22	23	26	26
■どちらともいえない	17	14	6	11	10	12	8
■どちらかというと役に立たなかった	4	5	2	5	3	2	4
■役に立たなかった	0	0	1	1	0	1	2

2) 2019年度卒業生

学部教育での学びについて（2019年度卒業生）

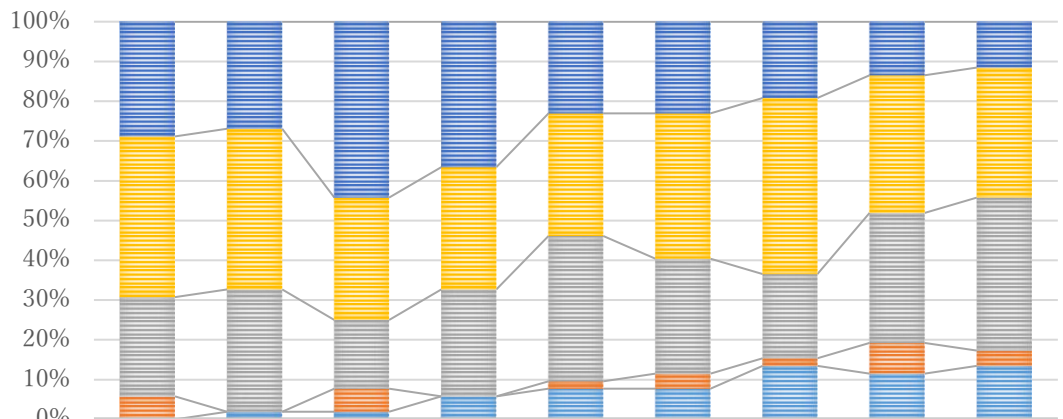


	豊かな人間性と広い視野 1:	豊かな人間性と広い視野2:	看護の専門的知識・技術 1:	看護の専門的知識・技術 2:	看護専門職としての判断力	看護の質向上に向けて探究心	継続的自己研鑽
■役に立った	5	5	19	5	9	9	7
■どちらかというと役に立った	31	24	26	29	26	30	28
■どちらともいえない	20	27	15	24	24	19	23
■どちらかというと役に立たなかった	7	5	3	6	4	5	6
■役に立たなかった	2	4	2	1	2	2	1

## 5.大学に期待すること

### 1) 2018年度卒業生

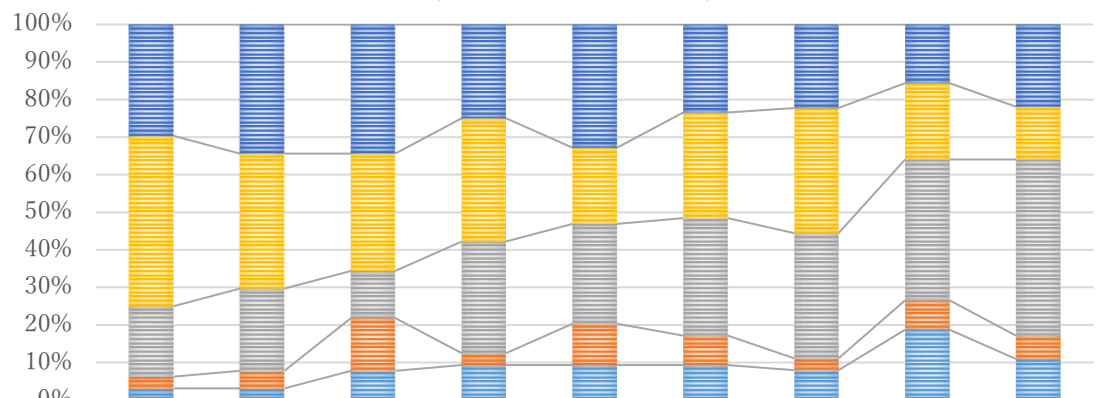
大学に期待すること（2018年度卒業生）



	教育カリキュラムの充実	臨床・臨地との協力	図書館の充実	公開講座の充実	卒後の教育支援	研究機関としての発展	地域貢献	同窓会活動への支援	大学からの情報発信
■ 期待する	15	14	23	19	12	12	10	7	6
■ どちらかという期待する	21	21	16	16	16	19	23	18	17
■ どちらともいえない	13	16	9	14	19	15	11	17	20
■ どちらかという期待しない	3	0	3	0	1	2	1	4	2
■ 期待しない	0	1	1	3	4	4	7	6	7

### 2) 2019年度卒業生

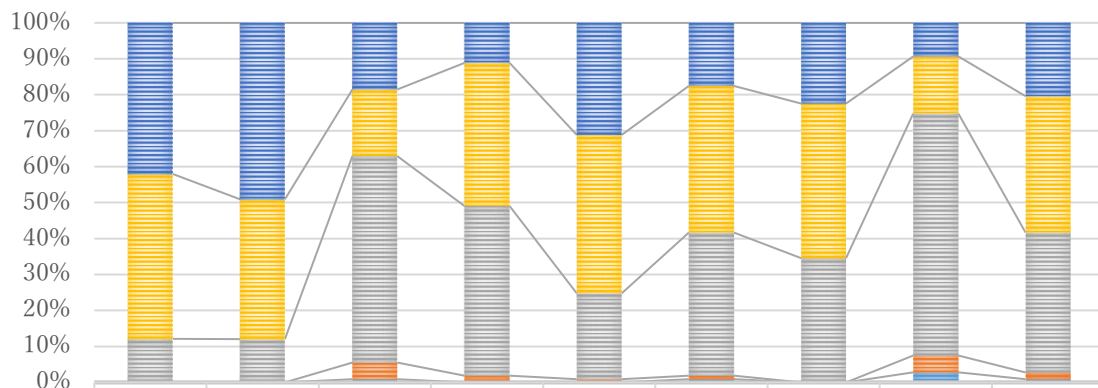
大学に期待すること（2019年度卒業生）



	教育カリキュラムの充実	臨床・臨地との協力	図書館の充実	公開講座の充実	卒後の教育支援	研究機関としての発展	地域貢献	同窓会活動への支援	大学からの情報発信
■ 期待する	19	22	22	16	21	15	14	10	14
■ どちらかという期待する	29	23	20	21	13	18	21	13	9
■ どちらともいえない	12	14	8	19	17	20	21	24	30
■ どちらかという期待しない	2	3	9	2	7	5	2	5	4
■ 期待しない	2	2	5	6	6	6	5	12	7

### 3) 管理者

#### 大学に期待すること（管理者）

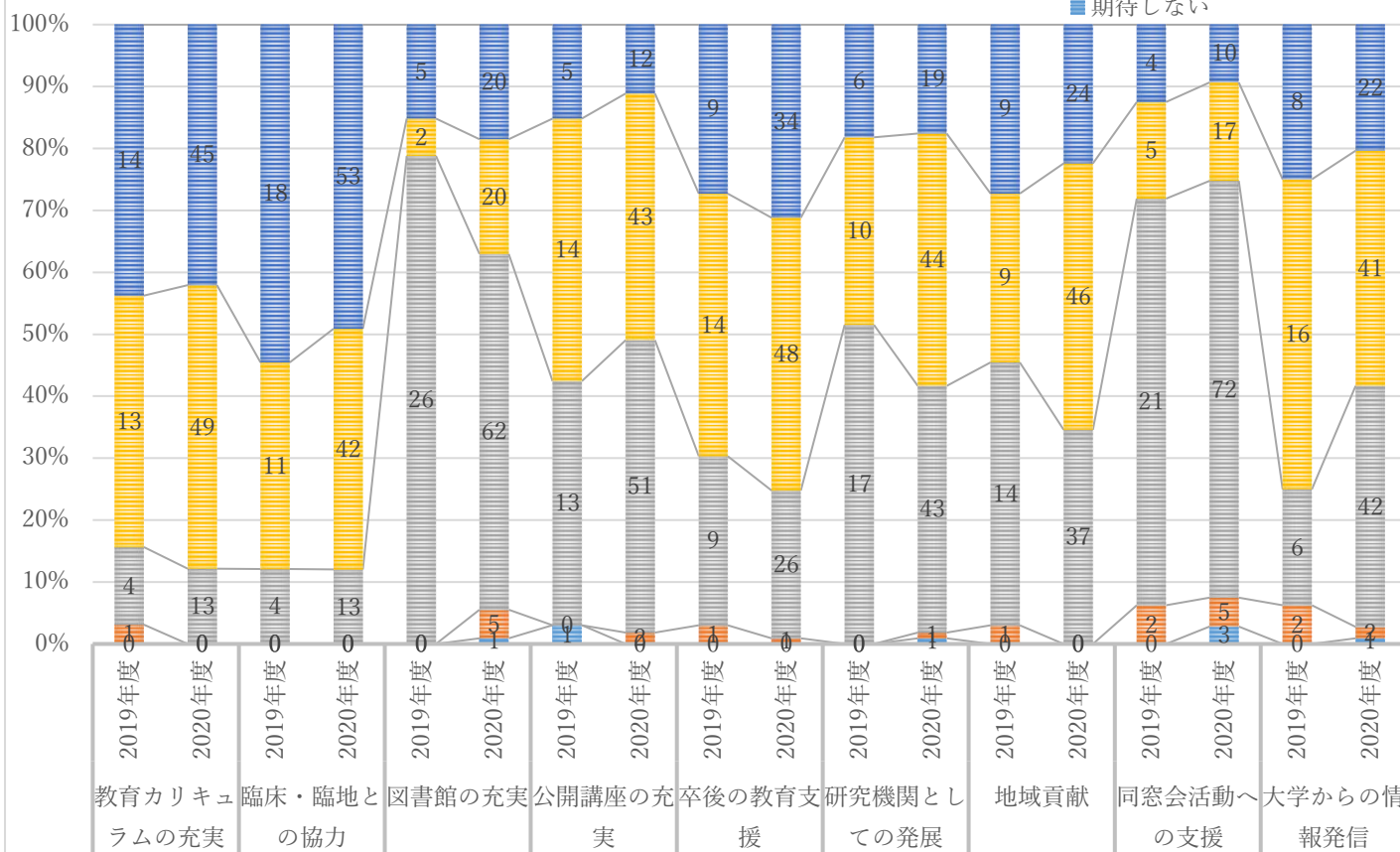


	教育カリキュラムの充実	臨床・臨地との協力	図書館の充実	公開講座の充実	卒後の教育支援	研究機関としての発展	地域貢献	同窓会活動への支援	大学からの情報発信
■ 期待する	45	53	20	12	34	19	24	10	22
■ どちらかという期待する	49	42	20	43	48	44	46	17	41
■ どちらともいえない	13	13	62	51	26	43	37	72	42
■ どちらかという期待しない	0	0	5	2	1	1	0	5	2
■ 期待しない	0	0	1	0	0	1	0	3	1

### 4) 管理者 2019 年度・2020 年度アンケート比較

#### 大学に期待すること（管理者）

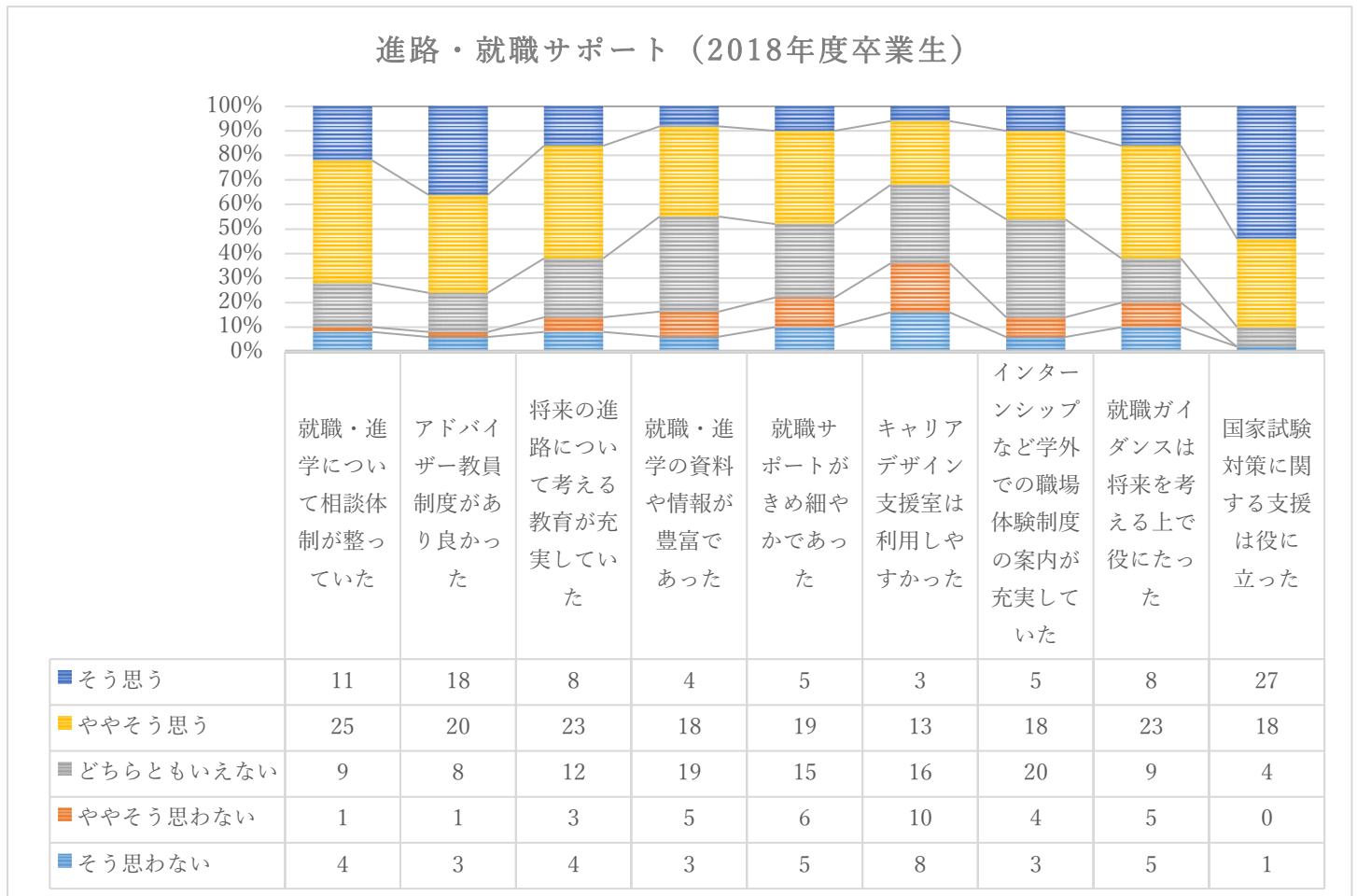
#### 2019年度及2020年度アンケート比較



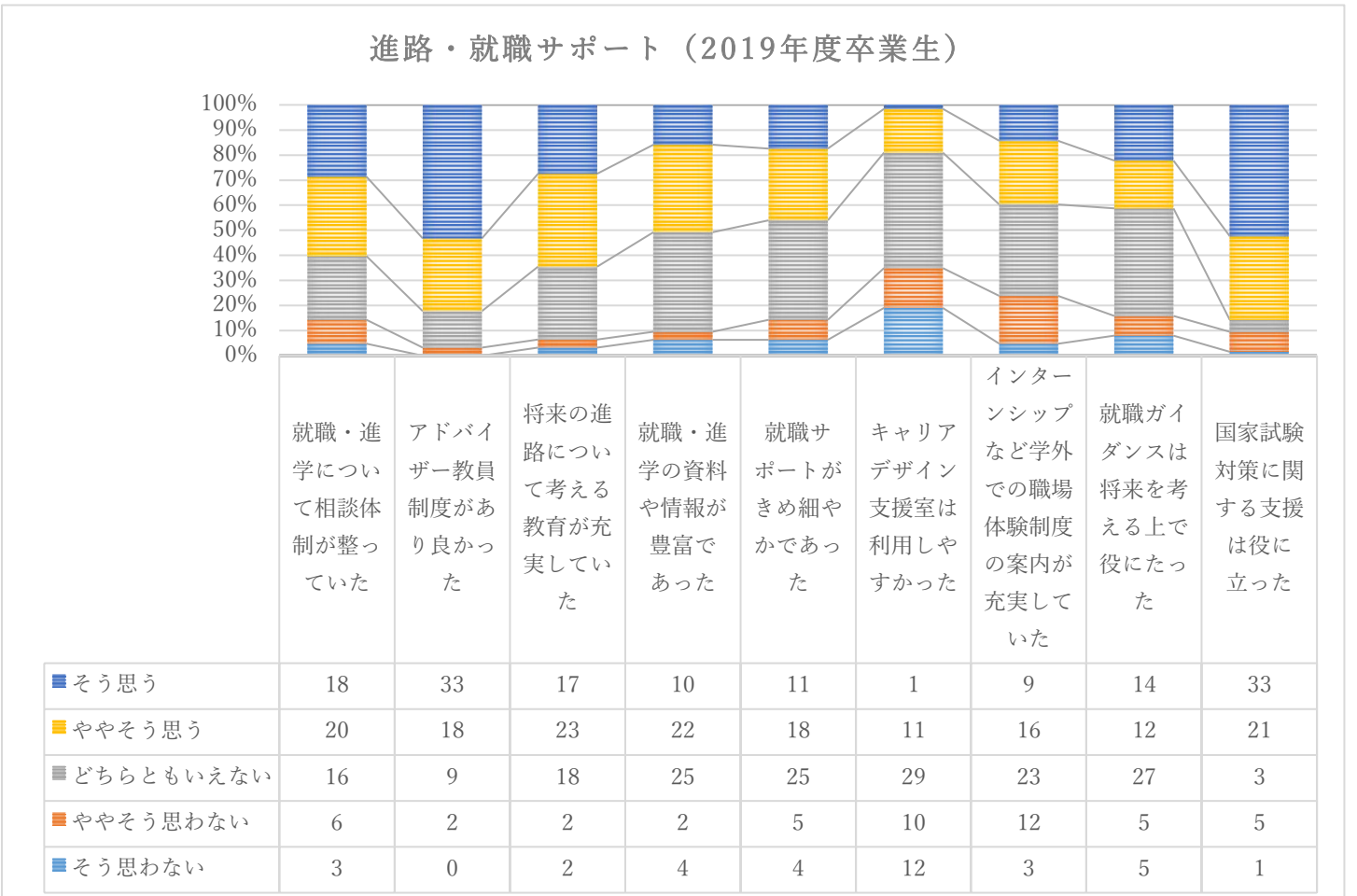
年度	教育カリキュラムの充実	臨床・臨地との協力	図書館の充実	公開講座の充実	卒後の教育支援	研究機関としての発展	地域貢献	同窓会活動への支援	大学からの情報発信
2019年度	14	18	5	12	9	6	9	4	8
2020年度	45	53	2	20	43	10	46	5	41
2019年度	13	11	26	14	14	17	14	21	6
2020年度	49	42	62	51	26	43	37	72	42
2019年度	4	4	0	0	0	0	0	0	0
2020年度	0	0	5	2	1	1	0	5	2
2019年度	0	0	1	0	0	1	0	3	1
2020年度	0	0	1	0	0	1	0	3	1

## 6.本学の進路・就職サポート：卒業生対象

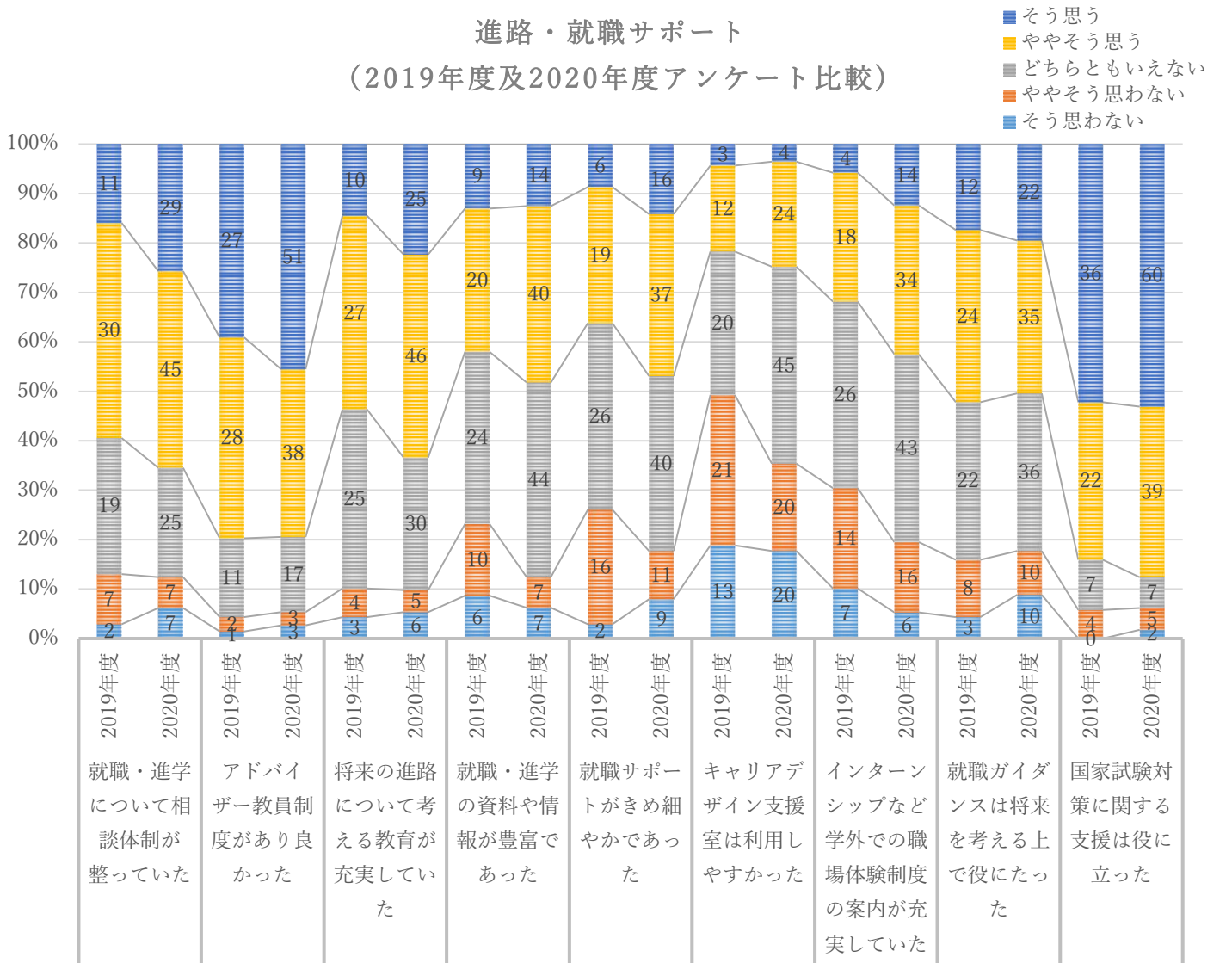
### 1) 2018年度卒業生



### 2) 2019年度卒業生

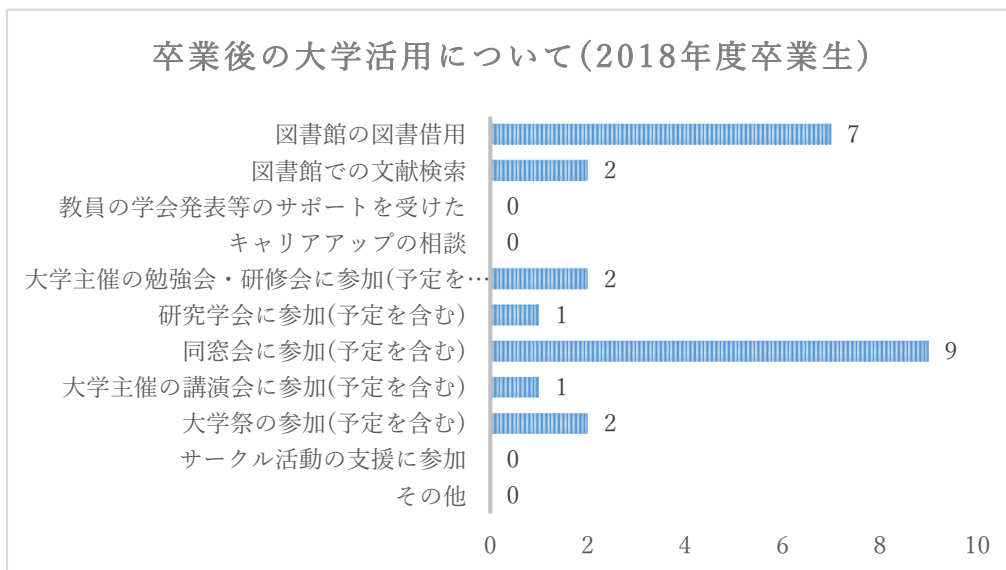


## 進路・就職サポート (2019年度及2020年度アンケート比較)



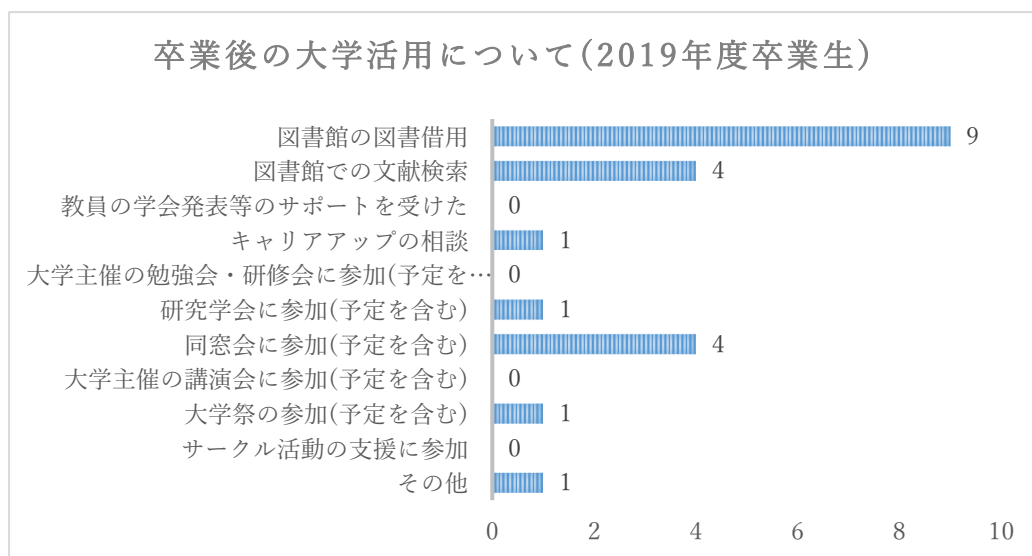
## 7. 卒業後の大学の活用：卒業生対象

### 1) 2018年度卒業生



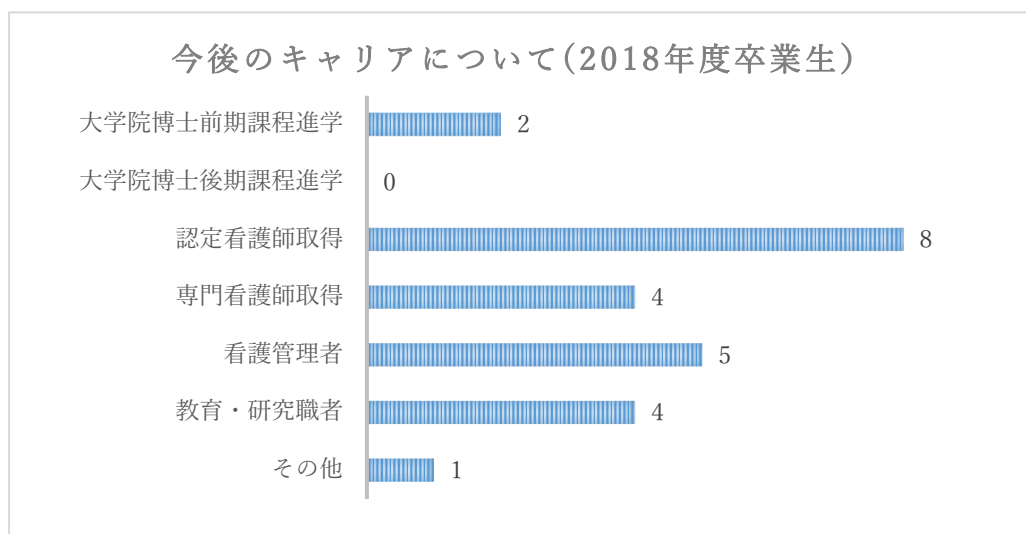


2) 2019年度卒業生

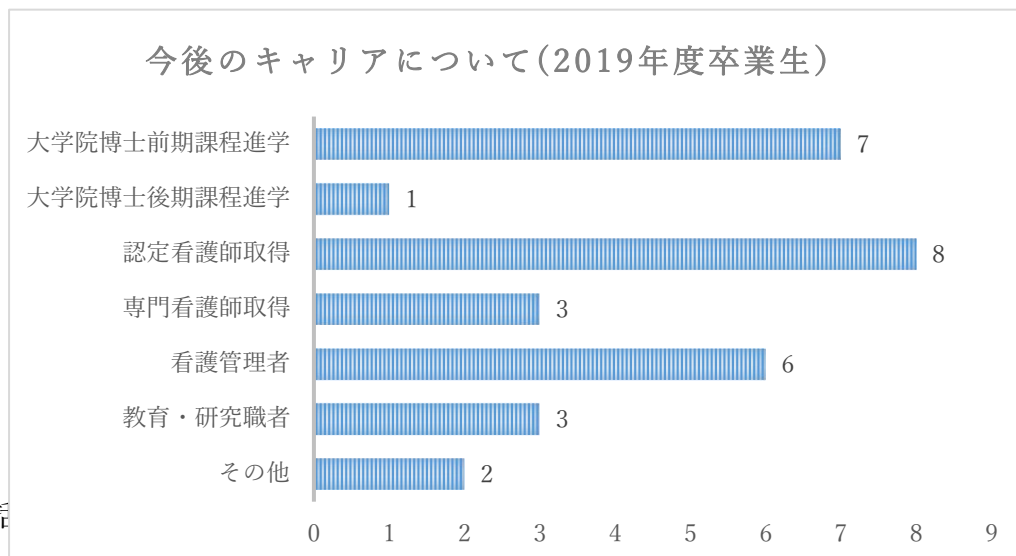


8. 今後のキャリアについて：卒業生対象

1) 2018年度卒業生



2) 2019年度卒業生



1, 卒業生 2018 年度 94 名中 50 名 (回答率 53%) 2019 年度 96 名中 64 名 (回答率 67%)、管理者 67 名中 40 名 (回答率 59%) からの高い回答を得られた。今後も回答率アップに向けて管理者との連携を強化し、卒業生には同窓会と連携し協力依頼をする。

## 2, 看護実践能力について

・自己評価では、「正確な知識と技術を対象に安全で基本的な看護実践」「看護実践や自己の成長のために他者の支援を求めること」「チームの一員として自分の役割を認識した行動」については、2019 年卒が“できる”と回答した者が増加している。他の項目については変化がなかった。

・他者評価も同様の結果であった。

## 3, 学部教育での学びについて、ディプロマポリシーを評価

概ね 2018 年および 2019 年の結果からディプロマポリシーに示された能力は備えることができたと考えられる。特に人々の健康ニーズに対応（予防、改善、解決）するための看護実践に必要な基礎的能力を身につけている項目の評価が高かった。また、自己・他者ともに豊かな人間性と広い視野についてはポイントが低く、強化する必要がある。

## 4.大学に期待すること

2019 年度卒の方が 2018 年度卒に比べ期待度が若干低い。管理者からは、特に教育カリキュラムの充実や臨床・臨地との協力、卒後の教育支援に対して期待が高かった。

教育カリキュラムの充実、臨床・臨地との協力、教育カリキュラムの充実は卒業生（2 年）・施設とも期待が高い結果となった。今後実習施設との連携を図り（⇒実習指導者研修会の開催）大学として地域全体のキャリア支援の在り方を検討する。また、教育カリキュラムの充実は 2022 年度新カリキュラムと反映される。

## 6.本学の進路・就職サポート：卒業生対象

国家試験対策・アドバイザー制度の満足度が高かった。学生に対する進路・就職サポートは、全教職員を挙げて取り組んできた。特に、アドバイザー教員制度は、学生からも期待されていた。キャリアデザイン支援室の利用しやすさについては、両学年とも 3 割以上が不満を持っており、2020 年 7 月よりキャリアデザイン支援室を実習センターから独立させ、キャリアデザイン支援室に職員を常時配置することとなった。

## 8.今後のキャリアについて：卒業生対象

大学院への進学や認定看護師、看護管理者の資格取得を目指している積極的な卒業生もいるため、卒業後もキャリアデザイン支援室の利活用を、同窓会報発送時に掲載することにより、卒業生が一定数相談に来ている。

## 9. 自由記載

積極的に職務に取り組み、上司、先輩から期待されている多くの卒業生がいるが、現代の若者に総じて言えるコミュニケーション能力が不足していること、メンタル面での弱さもある卒業生がいることなどを指摘されている。また、社会人として備えるべき能力（接遇、責任感、自立心など）が身に着いていない卒業生もいることが、就職先からの不満になっている。今後は、社会人として備えるべき能力についてさらなる強化を図り、2020 年 7 月以降着任したキャリアデザイン支援室長が 3・4 年生オリエンテーション、保護者会などで講話を行っており、改善されることを期待する。